

令和7年度 6月号

めいか

令和7年5月30日
文京区立明化幼稚園

いのちに触れる体験

園長 西郡 千晴

さわやかな新緑の中、小石川植物園での親子遠足へのご参加ありがとうございました。

親子遠足にも教育課程内の活動として教育的なねらいがありました。幼稚園教育の内容を示す幼稚園教育要領の、身近な環境との関わりに関する領域「環境」の中で、身近な自然や生き物に触れることは、大切な教育活動に位置付けられています。近隣の自然環境に出掛けて大きな自然の中で過ごすことに加えて、小さな生き物に触れることや栽培物を通して、生命の大切さを知る機会となることをねらっています。

先日の「いちにちどうぶつむら」では、小さな生き物に触れて動物の温かさや生命力を直接感じる体験をしました。この体験を通して、動物を慈しむ気持ちを抱くことが期待されます。また、栽培物を育てることから、生命の力強さや自然の神秘を感じることができます。植物の生長を観察し、生命のサイクルに触れることで、自然への畏敬の念を抱くことが期待できます。ただその環境の中に幼児がいれば、勝手に命を大切にできる心は育つものではありません。そこに関わる教師が、幼児の感じていることに気づき、その気持ちに共感し、やさしく関わろうとする幼児の姿を認めていく援助が必要です。しかしながら、教師自身、動植物に触れ合う経験が乏しいということもあります。経験のある教師も、初めて出会う自然の姿に触れることもたくさんあります。また、必ず教師が幼児に教えるとは限りません。細部やわずかな変化の気づきを、幼児が教えてくれることもよくあることです。

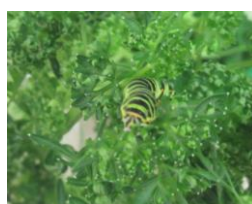
現在、嬉しいことに全ての学級にチョウの幼虫がいます。一日中様子を見ている子、自分も同じ気持ちになって変身して遊ぶ子、よく見て絵を描く子、など触れ合い方は様々です。教師も一緒に仲間になって関わっています。ぜひ、保護者の皆様もお子さんと一緒に面白がって、身近な自然と触れ合ってください。そして、ご家庭で話題になったことを園でも共有させていただけたら幸いです。子どもが自ら興味をもった様子に寄り添い、大人の気づきを子どもに知らせる際、科学的視点のみならず、命の尊さに触れる視点も意識させていただけたらと思います。



柔らかくて温かいな



そっと近づいてみよう



パセリが大好き♪



サナギになりました
メスクロキアゲハ



金魚にお友達
できました